令和7年教育委員会第6回定例会会議録

開会日時 令和7年6月10日 午後 2時00分

閉会日時 同 上 午後 3時07分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 小花高子
同職務代理者 井口信二
委 員 久保洋子
委 員 壺内 明
委 員 谷部 憲子
委 員 田中 健

議場出席委員

・教育次長	山崎 淳	・学校教育担当部長	山梨 智弘
・教育総務課長	羽田 颯	・学校施設課長	川端 嘉彦
・学校施設整備担当課長	加藤 義人	・学務課長	大倉 義雄
・教育指導課長	杉山 茂	・学校教育推進担当課長	江川 泰輔
・総合教育センター教育支援課長	二ノ宮 正信	・総合教育センター管理担当課長	松井 美貴子
・統括指導主事	青木 大輔	・統括指導主事	田辺 留美子
・地域教育課長	高橋 裕之	・放課後支援課長	宮木 亮
・生涯学習課長	土居 真喜	・生涯スポーツ課長	張替 武雄
・中央図書館長	香川 幸博		

書 記 ・教育企画係長 木村 圭佑

開会宣言 教育長 小花高子 午後2時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 小花高子 委員 井口信二 委員 久保洋子

以上の委員3名を指定する。

○**教育長** 皆様こんにちは。本日、出席委員は定足数に達しておりますので、令和 7 年教育委員会第 6 回定例会を開会いたします。

次に、本日の会議録の署名は、私に加え、井口委員と久保委員をお願いいたします。

それでは、議事に入ります。本日は議案等が 1 件、報告事項等が 6 件でございます。

それでは、議案第 54 号「葛飾区文化財保護審議会への諮問について」を上程いたします。

生涯学習課長。

○**生涯学習課長** それでは、議案 54 号「葛飾区文化財保護審議会への諮問について」ご説明させていただきます。

まずは、「提案理由」でございます。葛飾区文化財保護条例第 25 条の規定に基づき、葛飾区文化財保護審議会に諮問する必要があるため、本案を提出するものでございます。

1 枚おめくりください。続いて、諮問文（案）についてです。

1 の「諮問事項」は、区登録文化財の登録及び区指定文化財の指定についてでございます。

アの「対象文化財」は、柴又七丁目 3 番 8 号の「旧たなかや」となります。

ページをめくった別紙をご参照ください。区登録文化財及び区指定文化財候補として、「旧たなかや」としております。

所有者は、中村住販、代表取締役中村文隆となっております。

調査報告書の説明の前に、最初に現在の建物の状況について別添の資料に基づき、ご説明させていただきます。

恐れ入りますが、ホチキス留めカラー刷りの資料で、左に「位置図（広域）」と書かれた資料をご用意ください。1 ページが広域の位置図、ページをめくりました 2 ページが詳細の位置図となっております。「旧たなかや」は、柴又街道と帝釈天参道の交差点に位置する建物となっております。

お手数ですが、10 ページを参照願います。最初に建物の写真のほうでご説明させていただければと思います。資料の 10 ページから 16 ページまでは、現状の「旧たなかや」の写真に掲載しておりますので、ご参照いただければと思います。10 ページは、建物を柴又街道側から見た全景図となっております。

ページをめくりまして、11 ページが参道に面したファサードとなっております。12 ページが、少し暗いのですけれども、1 階の内部の写真となっております。13 ページが、2 階の内部写真となっております。14 ページが、2 階内部と階段の写真となっております。

続けて、15 ページは、天井及び改造の痕跡の写真となっております。次の写真につきましても、改造の痕跡写真となっております。

以上が「旧たなかや」の現状の写真となります。

また、資料が前後して大変恐縮ですが、本資料の3ページにお戻りください。写真で見ただいた「旧たなかや」の全体の平面図となります。建物の右側が柴又街道、建物上側が帝釈天参道となります。

4ページをご覧ください。「旧たなかや」の1階の平面図となります。「旧たなかや」の建物全体ではなく、赤枠で囲った部分について、区登録文化財の登録及び区指定文化財の指定の諮問を行うこととしております。赤枠で囲った部分につきましては、便宜的に大正棟として説明させていただきます。赤枠で囲っていない左側の部分につきましては、昭和棟として説明させていただければと存じます。

5ページをご覧ください。大正棟として登録及び指定の諮問を行う2階部分の図面となります。建物の実測図については、北側立面図の対象範囲を6ページ、東側立面図の対象範囲を7ページにて示しております。

以上が建物の現状と文化財登録及び文化財指定の範囲となります。

続いて、調査報告書について説明をさせていただきます。お手数ですが、資料先頭に「案」とある資料をご参照いただき、2ページの「旧たなかや 調査報告書」をお開きください。

「名称」「所在地」「所有者」は、先ほど説明したとおり、「名称」が「旧たなかや」。「所在地」は柴又七丁目3番8号。「所有者」は中村住販となります。

次に「内容・用途・保存状況・作成年代」について説明させていただきます。

「旧たなかや」は、大正初期に建てられ、参詣の隆盛とともに改造と拡大を重ねてまいりました。柴又街道の敷設などもありましたが、大正期の建物は現位置を保っており、建築当初の形式はよく残されております。その後、経緯に記載のとおり、昭和30年代から50年代にかけ、昭和棟の増築と改造が行われております。その後、平成31年ごろまで、料亭としての営業を続けておりましたが廃業し、現在の所有者が所有権を取得する形となっております。

1枚ページをおめくりいただきまして、4ページになります。

「材質」については木造。「形状 構造」につきましては木造2階建、切妻造、平入、鉄板葺、桁行5間半、梁間4間となっております。建物の詳細については、記載のとおりとなっております。

次に、「由緒 沿革」について説明させていただきます。

「旧たなかや」は、参道と柴又街道の交差点に建つ旧料亭で、柴又名物の鰻、鯉に加え、泥鰯の柳川など川魚料理を提供してまいりました。参道の入口に所在し、参道南側に建ち並ぶ店舗の起点となっております。また、参道と柴又街道とが交差する角地に位置しており、参道側の平側を正面にすることで向かいの「ぬびす家」とともに参道の連続するファサードの起点となり、柴又街道には妻側を向けることによって、柴又街道側の表情を同時に表現しており、参道の景観において極めて重要な歴史的建造物と考えられます。

続けて、次ページの「登録及び指定理由」について説明いたします。

「旧たなかや」は、参道に築かれた料亭として、二つの建築的な特徴を有しております。

一つ目のアが、大正棟は、大正期の2階建料亭として、典型的な形式を有する建造物であり、1階は土間の客室と厨房とし、差物を多用して全面開口とし、2階は2組の次の間つき本格的座敷を対称形に配置しております。

二つ目のイが、大正棟は、参道沿いの景観を形成する重要な構成要素となる建造物であることです。腕木で支持される小ひさしが正面から東側面へと回り、差物で正面を開放しております。2階は高欄を設けて広い窓を開けており、建物の下手に落ちる棟を設ける参道に共通する当初の建築様式が残っております。

これらの二つの特徴とともに、「旧たなかや」の大正棟は、庶民も楽しめる、柴又の参道ならではの料亭としての特質と価値を見出すことができると考えられます。料亭とはいえ、塀などを持たずに開放的かつ都市的な構えを持っており、モダンとも言える建築は価値が高く、これは柴又のほかの料亭、例えば「川甚」「川千家」「ゑびす家」などとも異なる特徴とされております。しかも大正期前半という柴又の中でも最古級の建築であることから、柴又の都市史・建築史上、重要かつ貴重な建造物となっております。

さらに、「旧たなかや」は向かいの「ゑびす家」とともに、参道を連続するファサードの起点かつ、帝釈天側から見たときのアイストップとなっております。また、「葛飾柴又の文化的景観」の第1のリングと第2のリングの結節点にも位置しており、文化的景観の景観構成要素としても貴重な存在であることから、本建造物は区有形文化財として保護し後世へ継承する要件を備えているものと考えられます。

また、「付記 今後の保存・活用」についてですけれども、本建造物の閉業後、その土地建物が転売される中で、解体撤去され、重要文化的景観の重要な構成要素としても滅失の危機に瀕しました。幸いにも所有者の理解を得て、最古級の建造物であり、ほかの柴又の料亭と異なる都市的かつ庶民的な料亭として創業した大正期の店舗部分について、区指定有形文化財に指定し、保存する同意が得られたため、本諮問を行うこととしております。

今後、柴又街道の拡幅やそれに伴う移築が予定されておりますが、その際、増改築や修繕が加えられてきた建造物について、どの時期を想定し復元するかなどを考慮し、文化財的価値を損なわず、保存・活用できるよう復元・修復工事を行う予定としております。

また、不特定多数の利用を想定しつつ、貴重な木造建築を保存していくため、耐震性の確保や消防法への対応を行うとともに、建築基準法適用除外のための代替措置の検討を行い、その詳細については別途、保存活用計画を策定する予定としております。

調査報告についての調査報告書の説明については、以上となります。

最後に、この資料の最初のページ、諮問文（案）にお戻りください。

2の「答申期日」ですが、令和7年8月31日までに答申を受ける予定でございます。

私からの説明は、以上でございます。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○教育長 ただいまの説明について、ご質問などございましたらお願いしたいと存じます。

いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、お諮りいたします。議案第54号について、原案のとおり可決することにご異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認め、議案第54号について、原案のとおり可決といたします。

以上で、議案等1件を終わります。続きまして、報告事項等に入ります。

報告事項等の1「かつしかチャレンジプログラムについて」の報告をお願いします。

教育指導課長。

○教育指導課長 「かつしかチャレンジプログラムについて」のご説明をいたします。

「目的」でございます。学習や能力向上への意欲が高い区立小・中学校の児童・生徒を対象に、能力をさらに向上させるための事業を実施いたします。令和7年度は、これまでの「自然科学コース」「プログラミングコース」「English challengeコース」の3つのコースに加えて、「理数分野コース」を新設し、これら4つのコースの活動を通して、児童・生徒の思考力やコミュニケーション能力等の育成を図りたいと考えてございます。

「各コースの概要」でございます。まず、「自然科学コース」でございます。子どもたちが自らテーマを設定し、指導員の助言を得ながら実験・観察を行い、研究結果を考察する中で、科学的な見方や考え方のさらなる向上を図りたいと考えてございます。

「プログラミングコース」でございます。委託事業者によるフィジカル教材及びビジュアル教材を活用したプログラミング講座を行い、プログラミング的思考等の情報活用能力の育成を図りたいと考えてございます。

「English challengeコース」でございます。外国人講師のレッスン及び英検対策講座を、英語の習熟度に応じて分けた3つのクラス（英検準2級以上、英検3級、英検4から5級）において行い、英語によるコミュニケーション能力の向上を図り、実用英語検定試験合格を目指したいと考えてございます。

「理数分野コース」でございます。理数分野の学習を中心に学んだことを応用し、数式や物理の原理を活用した探究活動を行い、探究力や思考力の向上を図りたいと考えてございます。

次のページをご覧ください。「応募人数等」でございます。「自然科学コース」は小学校6年生が68人、中学校2年生が47人。「プログラミングコース」は小学校6年生が28人、中学校1年生から3年生が61人。「English challengeコース」の中学校1年生から3年生が97人。「理数分野コース」については、ただいま募集中でございます。

中学生の「プログラミングコース」及び「English challengeコース」につきましては、想定人数を超える応募人数であったため、応募者全員が受講できるように調整を図りたいと考えてございます。

「スケジュール」また「場所」については、資料のとおりでございます。

どうぞよろしく申し上げます。以上でございます。

○教育長 ただいまの報告につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

壺内委員、お願いいたします。

○壺内委員 学習が遅れがちな子どもたちの個別指導は、本区においても各学校が充実した取組を行っていると思います。その反面、学習が進んでいる子どもに向けた取組も区の事業としてやっているということで、さすが葛飾区だなと嬉しく思っています。

そういう中で、自然科学コースから理数科教育の必要性ということで、新しく「理数分野コース」を設けているのですが、「自然科学コース」の応募人数が定員の半分ほどと、若干少ないですね。これで「理数分野コース」が、定員30名なので、果たしてどれくらい来るかということで、応募の仕方についても改善しながら、子どもたちがやりたいと思うような取組を各学校に示唆してあげて、ぜひ応募数を増やしてほしいなと思います。また、「自然科学コース」については、中学生向けの研究組の回数が21回と多いですね。そのような理由で若干応募数が少なくなっているのかなと考えておりますので、その辺について何かご意見や考えている案があれば教えてください。

○教育長 教育指導課長。

○教育指導課長 まず、「理数分野コース」の応募でございますけれども、子どもたちが興味関心を持てるようなチラシをつくりまして、募集を図ろうとしているところでございます。保護者が2次元コードで学校を通さず申込みができるような形で、教員にもしっかりアピールをしてもらって、たくさん応募ができる形にしていきたいと思っております。

また、ご指摘のありました「自然科学コース」研究組の回数については確かに多いのですけれども、グループで話し合い、実験または観察をしながら一つの研究テーマに向けてやっていくというところで、しっかり発表していく中でそういった素晴らしいものが出来上がっていくと考えております。様々な事情を鑑みながら、検討していきたいと思っております。

以上です。

○教育長 壺内委員。

○壺内委員 この21回というのは、研究組の生徒全員が対象になっているのでしょうか。あるいはグループによって回数に差があるのでしょうか。

○教育長 教育指導課長。

○教育指導課長 基本的には、全グループ21回を実施しているというところでございます。回

数については改めて検討させていただきます。

○教育長 よろしいですか。ほかにはいかがでしょうか。

井口委員、お願いいたします。

○井口委員 壺内委員のお話と重複するところがあるかもしれませんが、「自然科学コース」は理科大のすばらしい施設を活用して、あそこに入っていただけで子どもたちは何かわくわくするのだと思います。たしか名前もそんな感じになっていたかなと思うのですが、葛飾区にあるすばらしい施設を活用して、とても楽しい子どもたちの学びが展開されるのではないかなと思っています。

発表会も毎年2月頃にあつて、子どもたちがそれぞれ工夫した取組をして、自信を持って発表しています。このプログラムの目的である思考力やコミュニケーション能力の育成について、とてもいい活動かなと思います。さらに活発になってほしいと思います。

新しくつくられた「理数分野コース」については自然科学コースと同じ施設を使って行われるのですが、すみ分けというか、例としてどんな探求活動を考えておられるのかなというのが1点と、プログラムによっては指導員が委託業者であったり、外国人講師であったり、科学センターでは指導員がそこに常駐しているのですが、この「理数分野コース」の指導はどなたが担当するのかというのを教えてください。

○教育長 教育指導課長。

○教育指導課長 まず「理数分野コース」の内容でございますけれども、物の仕組みをしっかりと理解した上で、物づくりをしていくというところでございます。例としてLEDランタンがございしますが、最初にランプがつく仕組みをしっかりと理解してもらいます。

その上で、LEDランタンをつくってみようということで、例えば、人が近づくとランプが点滅していくとか、それから光の色を変えていくとか、そういった仕組みをしっかりと理解しながら作るというような内容をやっていきたいと考えてございます。また、指導する者ですが、基本的に委託業者をお願いをしているというところでございます。

以上です。

○井口委員 ありがとうございます。

○教育長 よろしいですか。ほかにはいかがでしょうか。

○井口委員 もう一つ。

○教育長 井口委員、どうぞ。

○井口委員 これは場所の問題なのでどうしようもないかもしれませんが、科学センターにしても理科大の施設にしても区内の東側にあり、新小岩など西側のほうの地区の子にとって、何か参加しづらいようなところがあるかなと思います。もし、分室のような施設があれば、そこから体験できるようにしていくお考えがあるのかどうかをお聞きしたいと思います。

○教育長 教育指導課長。

○教育指導課長 様々な子どもたちや保護者の意見、または教員の意見を参考にしながら、もしそういった声が大きくなれば、検討してまいりたいと思っています。

以上でございます。

○井口委員 ありがとうございます。

○教育長 よろしいでしょうか。ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上で報告事項等の1を終わりといたします。

次に、報告事項等の2「葛飾区立中学校部活動顧問指導員の生徒指導に関する新聞報道について」の報告をお願いします。

教育指導課長。

○教育指導課長 「葛飾区立中学校部活動顧問指導員の生徒指導に関する新聞報道について」のご説明をいたします。

「概要」でございます。葛飾区立中学校女子ソフトボールの部活動顧問指導員が、部員の女子生徒を指導する際に行った不適切な言動について、新聞報道があったため報告いたします。

報道があった機関でございます。まず、毎日新聞が、5月25日にネットニュース、同じく5月27日にネットニュース、そして5月30日の朝刊でございます。朝日新聞につきましては、5月31日に朝刊で出ました。

当事者につきましては、まず指導員が40代の女性でございます。そして女子生徒、当時中学校2年生で、現在は卒業してございます。

事案の経過でございます。令和4年度及び5年度中に、指導員が部員の女子生徒に対して、試合中のミスや練習態度等について指導する際に「話が通じない」「3歳の頭しかない」等の不適切な言動を行っておりました。また、指導員と部員との連絡手段に使用していた無料通信アプリの中で、指導員は同女子生徒に対し、「声が小さい」等の理由から、「バカ」「ハゲ」等の内容を送信いたしました。

次のページでございます。令和6年3月、女子生徒の保護者から葛飾区教育委員会に対し、指導員への苦情があったため、学校長に事情を確認したところ、苦情が事実だったことを認知し、学校への注意、指導及び指導員への指導方法の改善を学校長に指示をいたしました。その後、指導主事立会いの下、学校長は指導員に対し、女子生徒に対する言動やアプリの送信内容に関して、厳重注意、指導を行いました。また、指導員は、女子生徒保護者に対し、アプリの送信内容について謝罪をいたしております。

報道後の対応でございます。全小中学校長が参加する定例校長会におきまして、本事案について説明をするとともに、改めて教職員による児童・生徒への不適切指導について、注意喚起を行いました。

以上でございます。

○**教育長** ただいまの報告につきまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いしたいと存じます。

田中委員。

○**田中委員** 部活動の指導者の確保が難しい中いろいろな方に協力していただいて、非常にありがたいと思っております。

一方で、不適切な言動・行動については、社会的には一発アウトという状態ですので、そこでこのようなことが起こると、次の指導員の方の確保や部活動の維持が難しくなるので、非常に残念だなと思っております。

ちなみに、こちらの指導員の方は、このような事案を起こしてしまったということはあるのですが、通常の顧問としての活動や指導については一定の評価を受けられた方なのでしょうか。

○**教育長** 教育指導課長。

○**教育指導課長** 以前は、指導の効果が表れていたというところは聞いてはございます。この事案については、本当にあってはならないことですので、しっかり注意・指導をしていきたいと思っております。

○**教育長** 田中委員。

○**田中委員** 承知しました。本当に、昔は、情熱と体罰がイコールみたいなのがありましたけれども、今はそういう時代ではないというところがあります。そこでこのようなことが起きてしまうと、部員にとっても指導者にとっても残念な結果になってしまうので、ぜひ改めて、全体に周知や注意喚起をしていただけるとありがたいなと思いました。

○**教育長** 教育指導課長。

○**教育指導課長** ちょうど昨日、定例校長会で、私や教育長のほうから全校長に対して、しっかり指導させていただきました。今もそのようなことが発生しないように、しっかり指導を徹底させていただきたいと思っております。

○**教育長** よろしいでしょうか。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上で報告事項等の2を終わりといたします。

次に報告事項等の3「令和6年度『放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）』の実施結果について」の報告をお願いします。

放課後支援課長。

○**放課後支援課長** それでは、報告事項等の3「令和6年度『放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）』の実施結果について」のご説明をさせていただきます。例年、この時期にご

報告させていただいている内容でございます。

まずは、1「事業の目的」でございます。放課後の子どもの居場所といたしまして、地域の方々にご協力を頂きながら、児童の健全育成と地域の教育力の向上を目的に実施しているものでございます。

次に、2「実施状況」でございます。記載のとおり、全49校で実施いたしました。

対象学年につきましては、全ての学年を対象としている学校が、令和6年度から一部運営を委託した東綾瀬小学校が加わりまして26校となり、その分、4年生から6年生の学校が、1校減少いたしました。また、登録者数、参加者数、平均参加率ともに前年度を上回る結果となっております。

2ページをご覧ください。

次に、3の「今後の取組」でございます。わくわくチャレンジ広場のさらなる受入れの拡大に向けまして、引き続き様々な働きかけを通じて、新たな担い手の確保に努めながら、全学校で週5日実施をすることや、参加対象学年の拡大、三季休業期間の活動実施についても継続して働きかけを行ってまいります。

次に、4「プログラム実施状況」でございます。地域の方々が、アドバイザーとして登録していただいている「学習、文化、スポーツプログラム」と、外部委託による「英語プログラム」を実施しております。なお、「英語プログラム」につきまして、令和5年度から6年度にかけて延べ実施回数が320回ほど減少しておりますが、令和5年度は、実施初年度で、予定回数を多く計画化したことによるものでございまして、令和6年度は、令和5年度の実施状況に見合った回数を計画化し、実施したものでございます。

なお、別紙といたしまして、各学校の詳細な実施状況を、A3用紙1枚にまとめてございます。今回から、資料の中ほどにある児童数の列に、平均参加率を加えさせていただきましたので、参考にいただければと存じます。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○**教育長** ただいまの報告につきまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

田中委員。

○**田中委員** ありがとうございます。

わくチャレについてはうちの子どもも参加させていただいております。非常にお世話になっております。こちらは今お話いただいたように、サポーターの方々の協力があって学校で実現できるというところで、感謝申し上げたいなと思います。

先日、中学校の運動会を拝見してきましたのですが、そこにわくチャレサポーターの方々もいらして、中学に上がった子どもたちの成長を我が子のことのように喜んでくれるという姿を見てみると、放課後事業の枠組みを超えて地域の交流プラットフォームになっていると思っ

おりますので、ぜひ今後とも事業の継続をお願いいたします。感想でございます。

○教育長 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

谷部委員。

○谷部委員 全校で週5回実施ができていないところがあるというのは、大体何校ぐらいで、例えば週1回お休みになってしまうのか、それとも月曜日は1年生、2年生みたいな感じで、1日1学年しか受けられないとかそういう感じなのでしょうか。そこが分かれば、教えていただいてもよろしいでしょうか。

○教育長 放課後支援課長。

○放課後支援課長 まず全学年対象にしている学校につきましては、この資料上の時点で25校というところがございます。

少し内訳をご説明しますと、2年生から6年生までが8校、3年生から6年生までが14校、4年生から6年生まで1校ということで、それぞれ各わくわくチャレンジ広場のサポーターさんの状況によって、取扱いが異なるところがあるものでございます。また、サポーターさんの確保の方法について従来からご相談を頂いているところがありますので、今後も対応を進めていければとは考えています。

○谷部委員 ありがとうございます。

○教育長 週5日間、全ての対象学年ができていない学校と、曜日によって学年を分けているような学校と、そのあたりの実態は分かりますか。

○谷部委員 この文書の中に「全学校で週5回を実施することを優先に」と書いてあったので、できていないところがあるのかなということで質問させていただきました。

○教育長 学校教育担当部長。

○学校教育担当部長 この資料の別紙のほうにA3横でつけている資料がございますけれども、ただいまおっしゃられました参加学年につきましては、左から7枠目のところに「参加対象学年等」ということで、7年4月1日現在の参加学年が、それぞれここに記載をしております。その内訳の校数を振り分けしていないもので、今数えるしかないのですが。

○教育長 内訳も書いてあります。

○学校教育担当部長 裏面に対象学年として、1年から6年の全学年でやっているのが25校、それ以外がこちらの記載のとおりという形になってございます。

○教育長 ご質問は、この対象学年が、月曜日から金曜日まで毎日来られているのですかというところだと思いますが、すぐには数字が出ないですか。

放課後支援課長。

○放課後支援課長 後ほど調べて報告させていただければと思います。

○教育長 谷部委員。

○**谷部委員** そうしますと、葛飾区のわくチャレということで、おのおの個性は出しているのですけれども、対象学年についてはまだまだ差があると思います。保護者の方も選ぶときに「ここは1年生からやっているのですね」とか「やってないのですね」ということを気にされていて、わくチャレが学童とともに結構重要視されているので、なるべくそういうところは統一した形にできるようにご努力いただければと思いました。

○**教育長** 放課後支援課長。

○**放課後支援課長** 大変失礼しました。申し訳ございません。今、谷部委員からお話がありましたように、平日週5日の実施や参加対象学年の拡大、三季休業期間中の活動実施も含めて、全校での実施に向けて充実を図ってまいりたいと考えてございます。サポーターさんの確保などの方法を検討させていただきながら進めてまいりたいと思います。

○**教育長** ほかにいかがでしょうか。

井口委員。

○**井口委員** 学校ごとの登録率に結構差があって、西小菅のように95%を超えているところもあれば、30%台のところもあるのですけれども、登録率が高い西小菅では何か特徴的な取組を行っているのでしょうか。

○**教育長** 放課後支援課長。

○**放課後支援課長** 一概に、登録率が高いところと低いところの傾向について申し上げるのは正直難しいところがございます。

学校によって活動の状況も異なりますが、私どもとして考えているのは、登録率の低いところになるのですけれども、例えば、学校の周辺に大きな公園や児童館がある学校では、学校内でなくても放課後の居場所があるということで、比較的登録率が低い傾向にあります。例を挙げますと、一番登録率が低い上千葉小についても、そのような傾向があるのかなと承知をしているところでございます。

○**教育長** 井口委員、お願いします。

○**井口委員** 各学校の運営委員会の目標として、対象学年を広げていこうという努力をされていますよね。そのネックになっているのはサポーターの数であるというのは想像できるのです。

いわゆる放課後子ども事業の地域の人材でということだけに限っていますが、高齢化が進む中、今後サポーターの数を十分補っていけるのかという課題がありますよね。なので、放課後子ども事業をやっているほかの地区では、地域に限らず自治体内の大学生や高校生の有償ボランティアまで広げていくところもあります。本区については「今後の取組」を読んでいると、今までのやり方の中で広げていこうとしているようなのですけれども、新たな担い手を確保する方法についてはお考えがあるのでしょうか。

○教育長 放課後支援課長。

○放課後支援課長 新たな担い手の確保というご意見、ご指摘でございます。私どもとしては、例えば待機児童が多い学校ですとか、このわくわくチャレンジ広場の事業継続が難しいというお話もあった学校7校に運営支援業務の委託を入れております。そうした学校さんに対して、今後、児童サポーターの方ですとか、もちろん利用者さんを含めてアンケート調査を実施させていただき、状況を確認していきたいと考えてございます。

検証したその結果につきましては、今後、運営委員会やサポーターさんとも情報共有をして、あくまで各校の活動状況に応じた形にはなるとは思いますけれども、引き続きご相談というか、検討は進めさせていただきたいと考えております。

○教育長 井口委員。

○井口委員 もともと、葛飾区のわくわくチャレンジ広場というのは、地域のおじさんやおばさんが、子どもたちを見守ってくれるということでスタートして、そのよさを前面に出してずっとやってきたのですけども、方向性として、今後、新しい課題が出たときにどう乗り切っていくかというのは、ぜひ広く考えていただきたいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で報告事項等の3を終わります。

次に、報告事項等の4「お花茶屋図書館の改修について」の報告をお願いします。

中央図書館長。

○中央図書館長 それでは私からの報告事項等の4「お花茶屋図書館の改修について」ご報告させていただきます。

まず、資料の1ページでございます。

まず、1「概要」でございます。

昭和52年に建築されまして老朽化が進んでおりますお花茶屋図書館は、「だれもが気軽に利用できる図書館の環境づくり」を目指しまして、施設のリフレッシュだけではなく「ゆったり、安らぎ、心地よい」といった空間や図書館サービスを提供できる図書館として、リニューアルを予定しております。今回、休館期間やその間に提供する図書館サービスについてご報告するものでございます。

次に2「施設の概要」でございます。所在地、建築年月、延床面積、構造は、(1)から(4)に記載のとおりでございます。

次に3「改修内容」でございます。別紙1が添付されております。そちらをご覧ください。別紙1には、まず「目標3 だれもが気軽に利用できる図書館の環境づくり」と書いてございます。そのために3つの取組をまいります。

まず、取組（１）の「利便性の向上とプライバシーへの配慮」でございますが、自動貸出機、セルフ予約棚、簡易返却機などを導入いたしまして、職員を介さず、利用者自身で手続が完結する環境整備を行ってまいります。

次に取組（２）の「多様な利用者への配慮」でございますが、安全・安心して利用できる環境づくりとして、昇降機の設置やバリアフリートイレの改修、またトイレの洋式化を進めてまいります。さらに、防犯カメラの設置を行い、誰もが利用しやすい環境整備を行います。

最後に取組（３）の「魅力的な空間づくり」でございます。１階には、書架を低くしたり、雑誌新聞コーナーのリニューアルなどにより、お年寄りや障害のある方などあらゆる世代の利用者がゆったりと過ごせる空間をつくります。また、２階には、児童室のフリースペース等の改修により、親子で安らげる空間づくりをいたします。そして、３階には、心地よい環境で学習等に取り組める空間を設けます。

１ページにお戻りください。続いて、次の「休館期間」でございますが、令和７年９月１日月曜日から令和８年７月２３日木曜日まででございます。

次に５「休館期間におけるお花茶屋図書館臨時窓口の設置」でございます。

まず、（１）設置場所でございますが、宝町憩い交流館内の１階ホールを少しお借りして、臨時窓口を設けます。別紙２に、地図で場所を示してございます。あわせてご覧ください。

次に（２）の設置期間でございます。お花茶屋図書館の休館に合わせまして、令和７年９月２日火曜日から令和８年７月２２日水曜日までを予定しております。次のページをご覧ください。その間、臨時窓口の開館時間及び休館日は、記載のとおりでございまして、本来のお花茶屋図書館の開館時間及び休館日に合わせてございます。

この期間内で提供するサービスでございますが、予約資料の貸出し、図書資料等の返却・検索及び予約、区立図書館の利用登録、読者相談、ブックポストの利用でございます。

最後の６「周知方法」でございます。広報かつしか、区公式ホームページ、区立図書館ホームページ、各図書館内での掲示等を行うなどして、丁寧な周知に努めてまいります。

本件については、以上でございます。よろしく願いいたします。

○教育長 ただいまの報告について、ご質問、ご意見ございますでしょうか。

久保委員。

○久保委員 ちょっと勉強不足で、お花茶屋図書館は建物の構造が４階建てとありますけれども、改修の部分は１階から３階までという内容となっているかと思えます。こちらは複合施設なのか、それとも単独の図書館として立ち上がっている建物なのか、確認をお願いします。

○教育長 中央図書館長。

○中央図書館長 こちらは、図書館単独でございます。

○教育長 久保委員。

○久保委員 それでは4階の部分は、何で構成されているのでしょうか。

○教育長 中央図書館長。

○中央図書館長 作業所や倉庫という形になってございます。

○久保委員 一般の方が入る場所ではないということで理解しました。その上で、改修内容のうち多様な利用者への配慮というところで、段差のある入り口に昇降機を設置するとありましたが、スロープではなく昇降機になった理由を教えてください。

○教育長 中央図書館長。

○中央図書館長 現時点におきましてもスロープはついてございますが、別途昇降機を設けることとしております。

○教育長 スロープは今後も生かしたまま、昇降機もつけるということですか。

○中央図書館長 そうです。

久保委員。

○久保委員 ということは、スロープの使い勝手が悪いということなののでしょうか。

○教育長 中央図書館長。

○中央図書館長 昔の建物に設置したことで使い勝手が悪いので、今回、昇降機も改めて設けるというところでございます。

○教育長 久保委員。

○久保委員 葛飾区の公共施設の整備をするに当たって、例えば、スロープの傾斜の角度が昔の基準で、非常に急坂であるという意味であるならば、新基準の緩やかなものにすればいいのかなと思ったのですが、いかんせん昇降機を新しくつけるということは電気などの配線も必要となるので、一般区民の方から見ると、スロープがあるのになぜ昇降機がついているのだらうと思うのではないのでしょうか。また、屋外の設備は雨風の影響も受けるので、今後の維持管理も考慮すると、例えばスロープのところの手すりの棒を設置して使いやすくするなど何か違う工夫ができたのかなと単純に思ったのですが、その辺はどういう判断で、スロープがあるにもかかわらず昇降機を設置することにしたのか教えてください。

○教育長 中央図書館長。

○中央図書館長 既存のスロープは確かにあるのですが、若干傾斜がきつく使いづらいものとなっております。傾斜を緩やかにするためにはスロープを延ばさなければならず、そうすると場所がかなり制約されてしまいますので、今回は昇降機の設置を予定しているところでございます。

○久保委員 分かりました。仕方ないですね。了解です。

○教育長 ほかに、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で報告事項等の4を終わります。

次に、報告事項等の5「中央図書館の改修について」の報告をお願いします。

中央図書館長。

○中央図書館長 それでは、報告事項等の5「中央図書館の改修について」ご説明いたします。資料をご覧ください。

まず、1ページ目でございます。

1「概要」でございます。令和6年9月に策定いたしました「葛飾区立図書館の改修の考え方」に基づきまして、中央図書館の照明設備のLED化や空調機器の入替え等を行うとともに、館内サインの見直しにも取り組むことで、誰もが快適に利用できる施設となるよう改修を実施するものでございます。

次に、2「施設の概要」でございます。所在地、建築年月、延床面積、構造は、(1)から(4)に記載のとおりでございます。

次に「改修の内容」でございます。照明設備のLED化、空調機器の入替え、図書館業務システム機器の入替えなど、(1)から(5)に記載のとおりでございます。

4の「改修期間」でございますが、令和7年10月1日水曜日から令和8年3月中旬までを予定してございます。

次の5「休館期間」でございますが、令和7年10月1日水曜日から令和7年10月14日火曜日まででございます。

恐れ入ります。次の2ページ目をご覧ください。6「部分開館の実施」でございます。令和8年3月27日金曜日からの通常開館までの間、改修の進捗状況に応じまして、部分開館を実施し、図書館の来館者サービスを順次再開してまいります。

まず、(1)部分開館でございます。こちらは、メインカウンター周りのサービスということになってございます。

実施期間は、令和7年10月15日水曜日から令和7年12月30日火曜日までの間でございます。開館時間及び休館日は、(ア)と(イ)に書いてあるとおりでございます。

この期間に提供するサービスでございますが、予約資料の貸出し、図書資料等の返却・検索・予約、図書館の利用登録、読書相談、ブックポストの利用でございます。

なお、この期間に提供できないサービスは、館内での図書資料等の閲覧、館内に配架してある図書館資料等の貸出し、子どもデッキの利用、ボランティア団体の会議室等の貸出し、空き教室での学習室としての開放でございます。

次に(2)「部分開館の拡大」でございます。工事の進捗状況に応じて、一般書・児童書エリアまで開館範囲を拡大するものでございます。この部分開館の実施期間でございますが、令和8年1月3日土曜日から令和8年3月25日水曜日まででございます。開館時間及び休館日は、(ア)と(イ)に記載のとおりでございます。

この期間において提供するサービスでございますが、先ほど（１）でご説明いたしました部分開館期間中において提供するサービスに加えまして、館内での図書等の閲覧や、館内に配架している図書等の貸出しでございます。

なお、この期間中においても提供できないサービスは、子どもデッキの利用、ボランティア団体への会議室等の貸出し、空き会議室の学習室としての開放でございます。

なお、別紙がついてございますけれども、別紙のほうには、部分開館期間中におけるサービス提供エリアや提供するサービスなどを示してございます。あわせてご覧ください。

3ページをご覧ください。最後の7「周知方法」でございます。広報かつしか、区公式ホームページ、区立図書館ホームページ、各図書館内での掲示等を行うなどいたしまして、丁寧な周知に努めてまいります。

本件については以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長 ただいまの報告につきまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上で報告事項等の5を終わります。

次に、報告事項等の6「区政一般質問要旨（令和7年第2回区議会定例会）」の報告をお願いします。

教育次長。

○教育次長 それでは、6月5日及び6日に開催されました「令和7年第2回定例会本会議」における一般質問のうち、教育委員会に係る質疑内容につきまして、概要をご報告申し上げます。

初めに、公明党、江口ひさみ議員のご質問でございます。

オンラインゲームやギャンブル依存症の若年化、若年者対策に関する区の認識及び予防啓発活動についてのご質問に対して、オンラインゲーム等へののめり込みに対しては、小・中学生においても注意が必要であり、不登校や人間関係の悪化も想定されること、依存症予防の取組といたしましては、各学校では、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室等を行っていることなどを答弁いたしました。

次に、子どもたちをギャンブル依存症予備軍にさせないための啓発についてのご質問に対して、現状を校長会と共有した上で、教員等への知識の普及・啓発や児童・生徒への指導方法について検討を進めていくこと、学校と保護者が互いに連携できるよう、セーフティ教室の充実に取り組んでいくことなどを答弁いたしました。

次に、障害者スポーツの普及啓発に関する本区の取組と成果についてのご質問に対し、取組事例をご紹介した上で、障害者スポーツ事業への参加者総数が増加し、一定の成果を上げることができたとの見解を答弁いたしました。

次に、障害者スポーツ活動の支援策についてのご質問に対して、助成制度の効果と慎重な検討の必要性をお示した上で、今後、効果的な支援策を検討していく旨を答弁いたしました。

次に、ユニバーサルスポーツの普及についてのご質問に対して、本区のユニバーサルスポーツの認知度が高いとは言えない状況をお示した上で、認知度の目標値 50%を達成するための取組を進める旨を答弁いたしました。

続きまして、区民連、かわごえ誠一議員のご質問でございます。

学校の公文書管理の課題と今後の取組等についてのご質問に対して、昨年度の区立小学校1校で発生した事案をご紹介した上で、今年度は全校でセキュリティ監査を実施するとともに、教職員研修において改めて意識の定着、注意喚起を図る旨を答弁いたしました。

次に、社会教育委員の会議の提言についてのご質問に対して、提言を関係各課で共有し、課題については整理しながら、提言の実現に努める旨を答弁いたしました。

次に、社会教育主事と社会教育士についてのご質問に対して、社会教育主事が重要な役割を担っていることから、現状の執行体制を維持するとともに、将来的なニーズを踏まえた執行体制についても検討すること、また、社会教育士については、今後、社会教育主事との連携等を研究していくことなどを答弁いたしました。

次に、学びの循環を進めるための支援の拠点についてのご質問に対し、社会教育主事を中心に現場に出向き、支援を行っている取組を今後も充実する旨を答弁いたしました。

次に、本区のコミュニティ・スクールの方向性についてのご質問に対して、令和8年度の松上小学校と新小岩中学校への設置に向けて、現在、両校校長と今後の進め方について協議していることなどを答弁いたしました。

次に、地域コーディネーターの資質向上についてのご質問に対して、コミュニティ・スクールの設置を契機として、研修会や情報交換会の開催などの取組により、資質向上に努める旨を答弁いたしました。

次に、PTAへの支援についてのご質問に対して、引き続き、各PTA連合会の要望を踏まえた支援策を検討、実施するとともに、今後、社会教育委員の会議の提言を参考としたさらなる取組を行う旨を答弁いたしました。

続きまして、共産党、中村しんご議員のご質問でございます。

学校給食の物価高騰への対応等についてのご質問に対し、今後も物価高騰を慎重に見極め、必要に応じて予算の補正を実施すること、現時点において、葛飾区立小・中学校以外に通学する区内在住の児童・生徒に対して、給食費相当分の昼食手当を支給する考えはない旨を答弁いたしました。

次に、義務教育費の負担ゼロを目指した事業の実施・拡充についてのご質問に対して、現時点において、制服の無償化や副教材及び新入学準備金の対象者の拡充の考えはない旨を答弁い

たしました。

次に、屋内温水プールの整備についてのご質問に対し、「今後の水泳指導の実施方法に関する方針」に沿って、3カ所の屋内温水プールの学校外に整備する旨を答弁いたしました。

次に、水泳指導の業務委託についてのご質問に対し、昨年度の教員に対するアンケート結果から、インストラクターの活用は効果があるとの見解をお示しした上で、今後も教員とインストラクターの連携を深め、子どもたちの水泳指導の充実に取り組む旨を答弁いたしました。

次に、インストラクターの派遣についてのご質問に対し、多くの課題があるため、現在のところ、学校プールでの水泳指導時にインストラクターを派遣する考えはない旨を答弁いたしました。

次に、学校プールへの遮光ネットの設置についてのご質問に対し、基本的にはプールサイドの一辺を覆う方法で設置する旨を答弁いたしました。

次に、学校プールの給水設備等の検討についてのご質問に対し、装置導入に当たっての課題を踏まえ、小学校は、学校外屋内温水プールへの移行を進めていくとともに、中学校プール改築に合わせて装置を導入する旨を答弁いたしました。

次に、バルサアカデミー葛飾校に係る調査についてのご質問に対しては、区長から調査結果は6月6日の議員協議会でご報告すること、今後の対応については区議会のご意見を伺いながら検討していく旨を答弁いたしました。

次に、区長が一部の交渉会派にだけ説明したとのご質問に対し、区長から非公式に議員をはじめ必要な関係者に状況を説明し、意見交換を行うことは、何らの制約も問題もないと考えていると答弁いたしました。

次に、グラウンドの優先利用の承認に係る責任についてのご質問に対して、区長から教育委員会と協議し、区議会のご意見を踏まえて判断した旨を答弁いたしました。このご質問に対しては、教育長からは、何の責任もない子どもたちのことを考え、苦渋の判断をした旨を答弁いたしました。

次に、キッズチャレンジ未来とアメイジングスポーツラボジャパンに対する認識についてのご質問に対して、事業譲渡の事実を把握した経緯などについて答弁いたしました。

次に、事業譲渡契約書についてのご質問に対し、隠蔽の意図の把握は困難であること、業務委託費用は月額5万5,000円であることなどを答弁いたしました。

次に、キッズチャレンジ未来とアメイジングスポーツラボジャパンとの委託契約についてのご質問に対しては、運営体制などを答弁いたしました。

次に、グラウンドの優先利用についてのご質問に対し、5月8日に、9月末で優先利用を終了する判断に至った経緯などを答弁いたしました。

次に、第二管理棟の賃料算定と実証検査についてのご質問に対して、算定方法をお示しする

とともに、設備配線などの着脱は確認したが、移動についての実証検査を行っていない旨を答弁いたしました。

続きまして、みらい葛飾、小林ひとし議員のご質問でございます。

事業譲渡契約における事業譲渡金及び業務委託についてのご質問に対して、事業譲渡金は事業譲渡の対価であること、業務委託費はグラウンドの確保及び区との連携業務の対価であることなどを答弁いたしました。

次に、公共施設の利用権についてのご質問に対し、又貸しによる利益と判断することはできないことなどを答弁いたしました。

次に、公共施設の管理責任についてのご質問に対し、本区の公共施設の管理責任を放棄している事実はない旨を答弁いたしました。

次に、事業譲渡契約書に関し区が示した法的解釈についてのご質問に対し、法的にグラウンドの利用権が売買されたと解釈できるものではない旨を答弁いたしました。

次に、事業譲渡契約書の確認についてのご質問に対し、区長から、対応に問題があるとは認識していない旨を答弁いたしました。

次に、バルサアカデミー葛飾校に係る調査についてのご質問に対し、区長から、調査結果は6月6日の議員協議会でご報告すること、今後の対応については、区議会のご意見を伺いながら検討していく旨を答弁いたしました。

続きまして、自民党、秋本とよえ議員のご質問でございます。

学童保育クラブの待機児童についてのご質問に対し、昨年度の学童保育クラブの整備状況をお示しするとともに、かつしかプラスについては、実施状況をお示しし、待機児童対策として大きな効果があったとの見解を答弁いたしました。

次に、来年度の学童クラブの募集に向けた待機児童解消の取組についてのご質問に対して、来年度の募集に当たっては、新年度の入会と夏季一時学童保育の募集時期を一元化し、待機児童の発生抑制を図ることなどを答弁いたしました。

次に、夏休み期間中のサービス提供の拡充についてのご質問に対して、今年の夏季休業期間中は、学校の空き教室等を活用し、子育て支援部が児童館職員による出張型の学童保育を実施することなどを答弁いたしました。

次に、わくわくチャレンジ広場の対策についてのご質問に対し、新たな担い手の確保策や、さらなる委託化の検討などについて答弁いたしました。

次に、今後の放課後等の過ごし方の充実についてのご質問に対して、学童保育クラブの利用希望者数の今後の推計等をお示しし、これらを踏まえ、関係部署等と検討を深める旨を答弁いたしました。

続きまして、みらい葛飾、夏目佳代子議員のご質問でございます。

東京 2025 デフリンピックの開催に向けた取組状況等のご質問に対し、区民が地元ゆかりの選手を応援できる取組等を答弁いたしました。

次に、アクセシビリティの確保と環境整備についてのご質問に対して、これまでの取組状況などをご紹介した上で、今後も案内表示の充実のほか、手話や筆談によるコミュニケーションについても検討していく旨を答弁いたしました。

続きまして、自民党、高木信明議員のご質問でございます。

東金町運動場の優先利用に関する今後の方針についてのご質問に対し、区長から、今後、体育施設全体の利用の在り方について改めて検討し、体育施設をより有効に活用した区民スポーツのさらなる活性化を推進する旨を答弁いたしました。

次に、本区のいじめ・不登校の現状についてのご質問に対して、いじめの認知件数及び不登校児童・生徒数のそれぞれについて、本区の数値及び全国の傾向を答弁いたしました。

次に、本区はいじめ重大事態の発生状況と、重大事態化の防止に向けた対応についてのご質問に対して、重大事態調査の実施件数をお示した上で、「葛飾区いじめの未然防止・早期発見・早期対応スタンダード」に基づく対応などを答弁いたしました。

次に、「ネットいじめ」や「関係性のいじめ」についてのご質問に対して、児童・生徒へのリーフレットの配布等の取組を紹介するとともに、今後は児童生徒がSOSを発信しやすい仕組みづくり等の課題について検討を進める旨を答弁いたしました。

次に、不登校への対応方策についてのご質問に対して、「校内サポートルーム」の設置や登校サポーターの配置、「ふれあいスクール明石」における支援などを答弁いたしました。

次に、多様な学びの選択と居場所の確保についてのご質問に対して、「葛飾区不登校児童・生徒支援スタンダード」に基づく取組をご紹介した上で、引き続き一人一人の状況に応じた社会的自立に向けた支援の充実に取り組む旨を答弁いたしました。

次に、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーについてのご質問に対して、それぞれの配置状況や課題をお示した上で、スクールカウンセラーの配置日数の拡大の検討や、スクールソーシャルワーカーの役割等について理解・啓発を図る旨を答弁いたしました。

次に、いじめ、不登校、自殺対策を分けて対応していることについてのご質問に対して、令和6年度の組織整備等の結果、いじめの重大事態化等に成果を上げることができたこと、今後も教育指導課と総合教育センター教育支援課が一層連携を図り、関係機関と協力しながら対応していく旨を答弁いたしました。

次に、「チーム学校」として、連携の実効性を高めるための方策についてのご質問に対して、「チームとしての学校」として課題に取り組むことの重要性をお示した上で、引き続き、校長がリーダーシップを発揮し、チームとしての学校の体制を構築できるよう、支援体制の充実に努める旨を答弁いたしました。

次に、教員の業務負担軽減やメンタルヘルスケアの促進についてのご質問に対して、これまでの取組をご紹介した上で、今後も働き方改革を進めていく旨を答弁いたしました。

ご説明は、以上でございます。

○**教育長** ただいまの報告について、ご質問などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

以上で、本日の議事は全て終了となりますが、そのほか何かご意見、ご質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして令和7年教育委員会第6回定例会を閉会といたします。ありがとうございました。

閉会時刻 3時07分